

「まるごと博物館構想」を核とした「人」・「地域資源」で紡ぎだすまちの元気創出事業

(1)KPI(重要業績評価指標)の状況について

NO	重要業績評価指標(KPI)	事業開始前	単位	基準年度	2020年度増加分	2021年度増加分	2022年度増加分	増加合計	単位	目標値KPI増加分の累計	単位
1	文化観光施設入館者数(のべ)	192,958	人	2017	▲58,246 2,000	▲33,536 5,000	9,183 5,000	▲82,599 -	人	12,000	人
2	市内店舗(「わざわざ店」)出店数(累計)	22	件	2017	6 5	3 5	7 5	16 -	件	15	件
3	「須坂eファンクラブ」の登録会員数	0	人	2017	0 0	0 0	2,726 3,000	2,726 -	人	3,000	人
4	「文化財・まちのお宝(魅力)まるごと電子ブック」(アプリ)の登録件数(のべ)	0	件	2017	20 1,000	3,280 5,000	134 5,000	3,434 -	件	11,000	件

※KPI実績値の下段は事業実施計画における各年度ごとの目標値

(2)2022年度の主な取組内容等について(成果、KPI進捗状況に関する評価等)

○須坂市をPRするためインフルエンサー(インターネット上影響のある人)の市内を巡る動画やその他WEB記事等を作成し、インターネットを活用し市内外へ向けて魅力の発信を行った。
 ○観光交流センター改修工事を行い、イートインコーナー設置や中庭の芝生整備など、観光客の滞在時間の増加につながる整備を行った。
 ○バスの休祝日の実証運行を行うとともに、駐輪場とEバイクを拡充設置し、文化施設・観光施設の回遊を促す取り組みを行った。
 ○米子大瀑布駐車場の総合休憩所として、老朽化したトイレの改修を行うなかで、情報発信のためにガイダンス室を設け、観光客の市内回遊を促す取り組みを行った。
 ○笠鉾会館の映像システムを更新し、無形文化財の動画や、各種PR動画が大画面で放映できるよう整備した。
 ○文化施設をチェックポイントに取り入れたロゲイニングイベントを開催するなど、須坂市の資源の魅力発信し、興味を持ってもらうことを目的とした事業を展開した。またアプリに博物館などの情報を掲載し、来訪を促した。
 ○市の強みであるフルーツを生かした商品開発による商品の継続的な販売に向け首都圏等の出店など販路拡大の支援を行った。
 ○須坂市の課題をテーマに、須坂市に興味を持つ首都圏の若者と、地域おこし協力隊とが連携し、実践的に課題解決に取り組み、市との結び付きを高め、継続的な関係人口の創出につながった。
 No.1…新型コロナウイルス感染症の行動制限の緩和の影響もあり、初めて目標値を達成することができた。
 No.2…「総合的休憩所・地域交流拠点”やまじゅう”」がオープンし、市内での起業や開業にチャレンジする皆さまをサポートした。
 No.3…ふるさと納税(信州須坂ふるさと応援寄附金)の寄附者に、施設回遊無料パスポートを送り、須坂市への来訪につながる取り組みを行った。
 No.4…昨年度開発したアプリにおいて文化財の情報について、追加修正整備を行った。引き続き小学生に支給されるタブレットで活用いただき、子どもたちへの文化振興につながった。

(3)2022年度取組内容及びKPI(重要業績評価指標)の状況を踏まえた次年度以降の取組みの方向性等

2022年度事業で実施した事業を含め、事業期間3年間でまちの元気創出事業で生み出されたモノやコト(実施事業)、これらを継続、発展させていくことで、須坂のまちの元気創出につなげていく

○(プロモーション事業)本事業で作成した、各種のプロモーション動画、須坂市のヒトモノ紹介動画をインターネットや、各文化施設、観光施設などで上映等、引き続き活用していく。
 ○(施設整備と回遊促進)観光交流センター改修で行った、イートインコーナーや交流センター中庭の芝生整備などを活用し、観光客の滞在時間の増加につながる事業を行う。また、駐輪場と併せ拡充設置したEバイクの活用を通じて、車以外の移動手段の活用により、中心地と郊外を結ぶ回遊ルート活用による施設来訪数の増加と文化施設間を中心とした回遊を促す。米子大瀑布駐車場のトイレ改築が完成し、新設した休憩室にて須坂市の情報発信が行えるスペースとして活用していく。また、本事業内で作成した米子大瀑布フットパスルート(パンフレット)を有効活用し、日本の滝100選である米子大瀑布の観光面の強化を図る。
 ※2021年度に設置したデジタルサイネージや総合的休憩所・地域交流拠点(やまじゅう)などを引き続き有効活用し、回遊促進・産業振興につなげていく取り組みを続ける。
 ○(無関心層を関心層に促す体験プログラム)好評であったロゲイニングイベントを例年行うイベントとして深化させ、地域の隠れたお宝の発掘、魅力の発信を行っていく。
 ○(商品開発・搬出出口拡大)開発した市内の産品を加工した商品については、各事業者が主体的に継続的販売を目指した取り組みを行う。
 ○(関係人口創出事業)繋がりのできたプログラム参加者との交流を深め、継続し課題解決に繋げた取り組み等を行う。